

常勤の病理医確保

がん診療拠点

病院の 実力

* 徳島編91

今回の「病院の実力」は、「がん診療連携拠点病院」を取り上げる。全国どこでも質の高いがんの治療が受けられるよう、国が指定している病院だ。

一覧表には、国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」の公開情報から、各拠点病院の①がん手術件数②抗がん剤などの化学療法を受けた延べ患者数③放射線治療を受けた延べ患者数④常勤の病理医の有無——を並べた。

拠点病院の指定要件は昨年1月に強化された。1年間の治療実績として、手術件数400件、化学療法は延べ患者1000人、放射線治療は同200人程度あることが望ましいとされた。手術中にがんの広がり

た。ただし、過疎地域では、医療圏の患者の2割程度の診療実績があれば良いとされた。常勤の病理医確保は、今年度中は猶予期間となっている。こうした緩和措置もあり、地域によっては拠点病院間の診療実績や体制の差が大きい。このような実態を踏まえながら、希望に沿う治療がどこで受けられるか検討したい。

「治療の記録ノート」活用

徳島大病院 金山がん診療連携・相談部門長



ーには主に医療機関同士の連携を図る「がん診療連携・相談部門」や、患者や家族らの治療の不安に応える「がん緩和・こころのケア部門」など6部門があります。それぞれの部門に、医師や看護師らが所属し、診療科や職種を超えたチーム医療に取り組んでいます。

県内にあるがん診療連携拠点病院の一つ、徳島市蔵本町の徳島大学病院。同病院がん診療連携センターの金山博臣がん診療連携・相談部門長(58)(泌尿器科長)に、話を聞いた。

大学病院では、がんの部位によって、各診療科で手術や放射線治療、化学療法などによる専門的ながん医療を提供しています。2006年には、これらの治療をサポートするため、院内にセンターを設立。センター

県内では、拠点病院などで「県がん診療連携協議会」をつくっています。協議会は、患者の手術後の経過を本人と医師が記録する手帳「治療の記録ノート」を作製。退院後も手帳を通じて地域のかかりつけ医と連携し、在宅療養を支えるのが狙いです。

病院の実力「がん拠点病院」

医療機関別2013年実績

医療機関	がんの手術件数	化学療法を受けた延べ患者数(人)	放射線治療を受けた延べ患者数(人)	常勤病理医の有無(○の場合)
徳島県				
徳島赤十字	1178	1154	253	○
県立中央	1068	1186	235	○
徳島大	742	2394	682	○
徳島市民	546	1675	176	○
香川県				
県立中央	1355	1564	357	○
香川大	854	1575	496	○
香川労災	764	1008	278	○
高松赤十字	744	1028	247	○
三豊総合	515	1414	156	○
愛媛県				
国・四国がんセ	1685	3932	854	○
県立中央	1463	1995	324	○
松山赤十字	1021	1066	202	○
市立宇和島	660	841	201	○
愛媛大	543	4627	414	○
住友別子	416	377	108	○
済生会今治	375	254	235	○
高知県				
高知大	1399	2943	397	○
高知医療セ	1023	1510	310	○
県立幡多けんみん	436	322	42	○

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター。*病理医の有無は昨年9月現在。拠点病院がない地域で指定される「地域がん診療病院」などは対象外。

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

がん情報サービス(ホームページ<http://ganjoh.jp>)では、主ながん種別の治療実績などの情報も提供している。平日には電話相談(☎0570・02・3410)通話料は本人負担)も行っている。